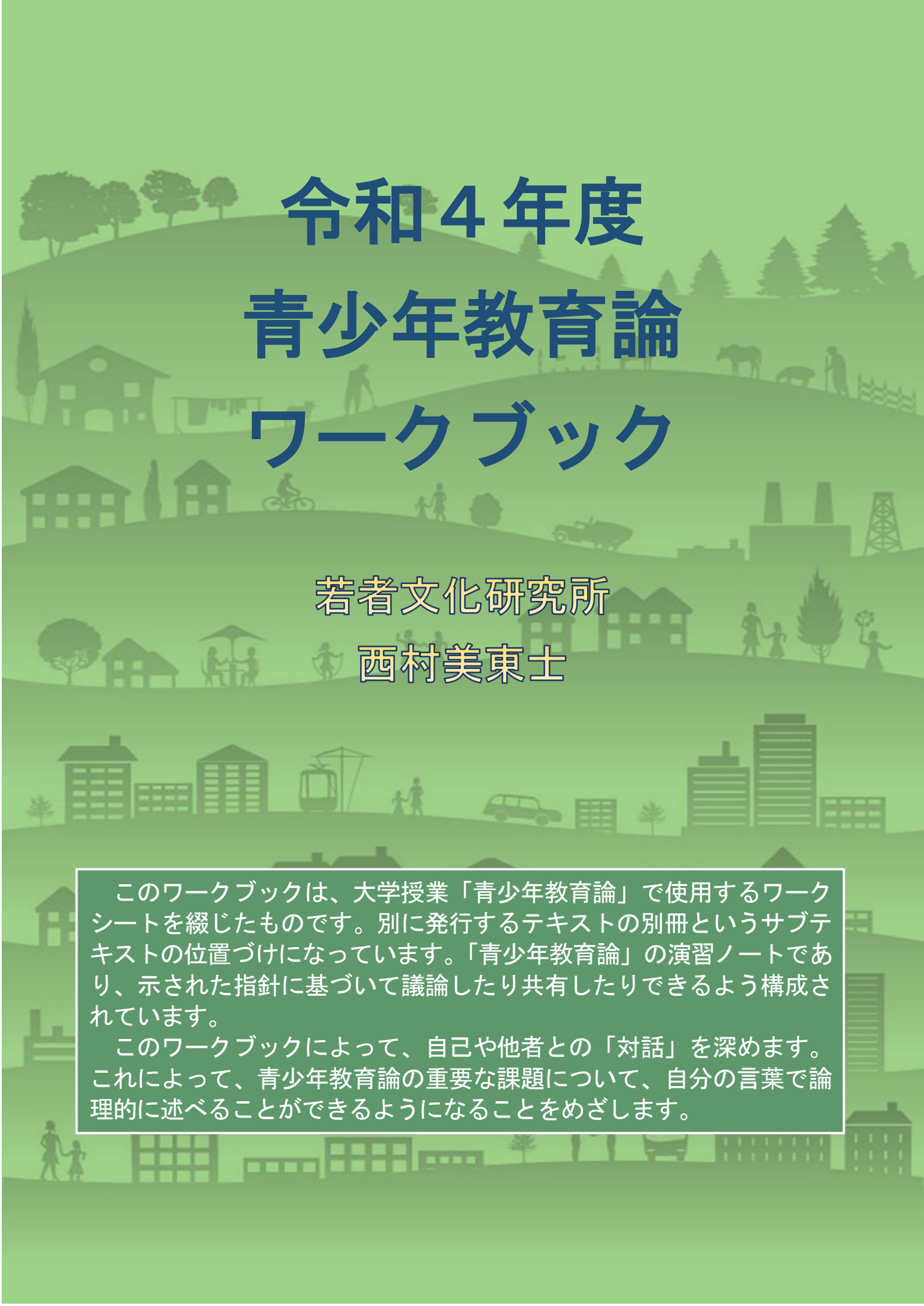




令和4年度 青少年教育論 ワークブック

若者文化研究所
西村美東士

このワークブックは、大学授業「青少年教育論」で使用するワークシートを綴じたものです。別に発行するテキストの別冊というサブテキストの位置づけになっています。「青少年教育論」の演習ノートであり、示された指針に基づいて議論したり共有したりできるよう構成されています。

このワークブックによって、自己や他者との「対話」を深めます。これによって、青少年教育論の重要な課題について、自分の言葉で論理的に述べることができるようになることをめざします。

令和4年度
青少年教育論
ワークブック

目次 【ワークシート以外の内容はテキストをご覧ください。】

- 1 導入（第1回）
- 2 基本的事項（第2回～第6回）
- 3 自分と社会（第7回～第12回）
- 4 集団・組織のなかで生きる（第13回～第14回）
- 5 まとめ「青少年教育論から得たこと」（第15回）

第1回

【課題事前】自己内対話ワーク *つぶやくつもりで書いてください。
(社会に出たときの必要能力について)

【説明】

あなたが社会に出ることを考えた場合の不安や知りたいことは何ですか。

1

2 . . .

3

これらの解決方法は各種ありそうです。

アドバイスとしては、明るくほがらかに、くよくよしないようにしよう。

あとは「癒し」とか旅とか・・・。

そして、教育としての本題は能力分野になります。

これらの不安のすべてではありませんが、一部は、能力の獲得によって解消できるでしょう。

上で考えたことを参考にして、社会に出たときの必要能力を書き出しなさい。

ここで能力とは、技能(～できる)、知識(～知っている)、態度(態度がとれる)の3種類を指します。性格・気質や免許・資格は含みません。

10分程度で、下のマス目におさまる程度で箇条書きでまとめなさい。

社会に出たときの必要能力

[illegible]

第1回

【課題事後】

(青少年教育による自己決定力の獲得支援について)

【説明】

今日の講義のポイントは、青少年教育による自己決定力の獲得支援についてでした。

講義を通じて学生とともに、教育学という学問をつくりたいと思います。他者の自己決定力を指導者が獲得支援するという原理には、簡単には到達できないと思います。みなさんは、学問形成に参加していると考えてください。

若者から見れば、「自分の人生は自分が決めて生きていきたい」と思うでしょうが、かといって、すべて自分の責任にされるのは怖いという気持ちもあるでしょう。

社会から見れば、自立した(自己決定のできる)若者を求めるとともに、組織の命に従う若者を求めるという面もあるでしょう。

これらの課題を考えて、具体的な例や身近な例を挙げ、「自己決定力」や「双方向」というキーワードを使って、20分程度で次の文章を完成させなさい。

【文章化】

青少年教育による自己決定力の獲得支援について

私は、青少年教育による自己決定力の獲得支援は、次の点に留意して行われる必要があると考える。

第一に、・・・

第二に、・・・

第三に、・・・

第2回

【課題事前】

(私にとっての自立の課題)

【説明】

前回、自立の重要性和難しさについて触れました。あなた自身も、自立に向けて、前向きに受け止める気持ちと、ためらう気持ちがあるのではないのでしょうか。「自立したい」「自立しなければいけない」「自立するとやらなくてはいけないことが増えて、人生を楽しめない」「そもそも私は自立できないのではないか」・・・。

そこでここでは、10 分程度で、「私にとっての自立の課題」を、下のマス目におさ
まる程度で二件以上の箇条書きでまとめてください。

私にとっての自立の課題

[illegible]

第2回

【課題事後】

(青少年の自立にとっての地域のあり方)

【説明】

今回の講義のポイントは、青少年の自立にとって、地域での学校外活動が、いかに有意義であるかということでした。

しかし、今の地域や社会の現状を考えると、かえって青少年の自立を阻害するなど、不十分な点も多々ありそうです。

そこでここでは、「青少年の自立にとっての地域のあり方」について、20分程度で次の文章を完成させなさい。

【文章化】

青少年の自立にとっての地域のあり方

私は、青少年の自立のためには、地域は次のようにあるべきだと考える（3つ以上）。

第一に、・・・

第二に、・・・

第三に、・・・

第3回

【課題事後】

本日は「課題事前」はありません。

望ましいSNSのあり方

SNSによって、新しい友達を見つけたり、互いに理解を深め合ったりするなどして、つながりを強める若者たちも多いと思います。しかし、一方で、傷つき、傷つけ合ったり、個人の良さをつぶしてしまうような事例も見られるように思います。そこで、ここでは、できるだけ具体的な案を交えながら、あなたの言葉で「望ましいSNSのあり方」についてのあなたの考えを説明しなさい。

第一に、メンバーの学習や成長にとって、助けになるために。

第二に、メンバーの社会参加につなげるために。

第三に、個人化傾向のなかで、よりよいコミュニケーションを図るために。

文章は、下の様式に従って記述しなさい。

望ましいSNSのあり方

本稿では、望ましいSNSのあり方について、次の点について考えを述べたい。

第一は、・・・についてである。これについては、次のように考える。・・・

第二は、・・・についてである。これについては、次のように考える。・・・

期末テスト予告

毎回、書いた課題回答を、各章としてコピーし、これに簡単な「前書き」「後書き」をつけて、「私の青少年教育論各論」というタイトルを付けて提出してもらうこととなります。加除訂正は自由ですが、気楽にそのまま出してもらっても、日頃の課題ができていれば大丈夫ですから安心してください。

第4回

【課題事前】 自然教室などの集団宿泊活動を振り返る

【説明】

「集団宿泊訓練」という言葉にはなんだか抵抗を感じます。

でも、いつもの学校生活と違って、わくわくしたことや楽しかったこともあるでしょう。

それを思い出して、青少年教育の大きな特徴である「集団宿泊活動」について、成果と課題について述べなさい。

ここでは私が体験した〇〇宿泊体験について述べたい。

成果としては次のとおりである。

1 . . .

2 . . .

課題としては次のとおりである。

1 . . .

2 . . .

第4回

【課題事後】魅力ある宿泊型青少年教育の提案

【説明】

社会教育の「団体宿泊訓練」や、過去の「若者宿」などについては、「昔のまま再現されたのではかなわん」という気分があるでしょう。

しかし、魅力ある青少年教育の場を作り出すには、みんなで宿泊し、生活を共にする宿泊型青少年教育の検討が欠かせません。

あなたが青少年教育担当者だったら、何をねらって、どんな宿泊型施設や宿泊型研修を企画したいか、述べなさい。

ヒント

- 1 自己内対話を促すために
- 2 自他理解を促すために
- 3 自己受容を促すために

私が青少年教育担当者だったら、何をねらって、どんな宿泊型施設や宿泊型研修を企画したいか、述べてみたい。

第一は、・・・・である。これについては、次のように考える。・・・・

第二は、・・・・である。これについては、次のように考える。・・・・

第三は、・・・・である。これについては、次のように考える。・・・・

このようにして〇〇〇〇の機会が豊富に提供されてこそ、宿泊型青少年教育の意義が深まると考える。

第5回【課題事後】

本日は課題事前はありません。

テーマ 「みんなぼっち」にどう対応するか

【説明】

「みんなぼっち」という状況には、古くは「おしゃべり症候群」や、同調圧力、ピアコンセプト、リア充などの問題が関係していると思われます。「みんなぼっち」自体を解消してしまうほうがよいのか。それとも、「みんなぼっち」を受け入れつつ生きていくのか。そして、そのようななかで、充実して生きていくためには、どうすればよいのか。

自分自身としては？ 若者本人としては？ 指導者としては？

ここでは、「みんなぼっち」にどう対応すればよいかを、あなたの言葉で説明しなさい。

本稿では、「みんなぼっち」にどう対応すればよいかについて、筆者の考えを述べたい。

自分自身としては、次のとおりである。・・・

一般的な若者本人としては、次のとおりである。・・・

指導者としては、次のとおりである。

第6回

【課題事後】 私にとってのキャリア形成について

(今回は「課題事前」はありません。)

今、皆さんは、自分の人生にとって思い出深い大学生活を送っていることでしょう。しかし、大学を卒業して社会に「一匹で飛び出す」とき、そしてその後について、多様化、流動化のなか、さらには「会社の寿命 30 年説」が出回るなか、どのようにキャリア形成を進めていこうとしているのか、自己内対話をして、まとめてみてください。

もちろん、大学で学ぶ学問そのものの魅力も大切にしたいし、さらには、職業以外のやりたいことや趣味活動も大切にしていきたいでしょう。

このようなことも含めて、今後、どのようにキャリア形成を進めていきたいのか、また、そのために大学生活では、どのようなことに力を入れていきたいのか、自分の言葉で説明しなさい。

本稿では、私にとってのキャリア形成について説明したい。

第一は、・・・・についてである。これについては、次のように進めていく必要があると考える。・・・・

第二は、・・・・についてである。これについては、次のように進めていく必要があると考える。・・・・

第三は、・・・・についてである。これについては、次のように進めていく必要があると考える。・・・・

第7回

【課題事後】自己決定の阻害要因と解決策

(今回は「課題事前」はありません。)

生涯学習も、ボランティアも、内容と方法を自分で決める自己決定の活動です。人から与えられたレールの上ではなく、言わば自分で敷いたレールの上を走るようになります。

しかし、このような自己決定には、多くの困難がつきまといます。生涯学習の阻害要因については、どのアンケートでも「時間がないから」という回答がダントツ一位を占めていますが、じつは実際には忙しく活躍している人ほど、生涯学習やボランティアをしているのです。

自己決定活動の阻害要因は、「多忙」のほかにも、もっと本質的な問題がありそうです。

ここでは、できるだけ青少年が自己決定できないということの本質的問題に迫ってみてください。「解決策はない」という解答も受け入れますが、ヒントは、「自己決定」というと、孤立して貫き通すという先入観が強すぎませんか」ということです。「学び合い支え合いの中での自己決定」という要素も取り入れて、考えてみてください。

これをもとに、次の文章を作成しなさい。

私は自己決定の阻害要因と解決策について、次のように考える。

第一に、・・・・ということである。これについては、次のよう解決できるのではないか。・・・・

第二に、・・・・ということである。これについては、次のよう解決できるのではないか。・・・・

第8回

【課題事後】

今回は課題事前はありません。

「協働的な学び」と並んで「個別最適な学び」が重視されています。ICT活用により、それはかなりやりやすくなっていると思われますが、「どのパターンには、どんな内容が最適か」という決定的なことは十分には解明されていません。ここでは、あなたのパターンを見極めた上で、そのパターンの人たちにとっての最適な学びのための課題を考えてみましょう。ヒントは、「苦手なことを無理に注入しようとしない」ということです。「プッシュ型からプル型へ」と言えるでしょう。

①貫徹志向交渉型＝「どんな場面でも自分らしさを貫くことが大切」だと思っていて、「友達と意見が合わなかったときには、納得がいくまで話し合いをする」タイプ

②貫徹志向非交渉型＝「どんな場面でも自分らしさを貫くことが大切」だと思っているが、「友達と意見が合わなかったときには、納得がいくまで話し合いをする」ということはない」タイプ

③状況対応非交渉型＝「どんな場面でも自分らしさを貫くことが大切」だとは思っておらず、「友達と意見が合わなかったときには、納得がいくまで話し合いをする」ということはない」タイプ

④状況志向交渉型＝「どんな場面でも自分らしさを貫くことが大切」だとは思っていないが、「友達と意見が合わなかったときには、納得がいくまで話し合いをする」タイプ

自分のタイプを見つけた上で、そのタイプの人が自立し、社会に出たときの、強みと課題を述べなさい。

私のタイプは〇〇型である。

このタイプの人が自立し、社会に出たときの強みは次のとおりである。・ ・

課題は次のとおりである。・ ・

第9回

【課題事後】「見知らぬ他者との出会い」

青少年活動、生涯学習活動、地域活動などには、見知らぬ他者との出会い、意味ある他者との出会いのチャンスがふんだんに含まれています。それが活動の魅力の一つになっていると思われます。

でも、学生に「あなたにとって居場所の条件は？」と聞いたところ、「知らない人がいないこと」という答えが返ってきました。輪が閉鎖していると言えるでしょう。たしかに、見知らぬ他者と出会うことについては、いわゆる「怪しい人」だったらいやだなあという気持ちが生ずるでしょう。しかし、そのことによって、閉鎖的人間関係、関係性の貧困が生まれているとも言えるでしょう。

そこで、ここでは、「見知らぬ他者との出会い」の阻害要因と解決方法について、あなたの言葉でまとめてください。

「見知らぬ他者との出会い」の阻害要因は次のとおりである。・ ・

これらの問題を解決するためには、次の点に留意する必要があると考える。・ ・

第10回 臨時追加テーマ

【課題事後】自己決定としての大学の学修

大学での学修は、自らの意思で選択して主体的に学ぶという、生涯学習の原則と同じく、自己決定の活動であることが理想とされます。しかし、実際には、さまざまな制限や障害があるでしょう。

そこで、少しでも、あなたの学修を自己決定に近づけ、充実したものにするために、どうすれば良いか考えなさい。

私は、大学での自分の学修をより充実するために、次のようにしていきたい。・ ・

第11回 プライオリティによる自己決定

【課題事後】私の職業に関する価値観

あなたの職業に関する価値観はどのようなものでしょうか。地位、時間、収入、評価、保障、人間関係、仕事内容。どれも大切なことですが、すべてを対にして比較することにより、優先順位(プライオリティ)を付けることができます。そのことによって自己の価値観を客観視し、納得できる判断基準を伴った自己決定に資することができます。

ここでは、価値観ゲームの質問の仕方、「あなたは、なぜ、〇〇より〇〇のほうが大事なんですか」という方法に従って、自己の職業に関する価値観を分析してみてください。

私の職業に関する価値観の順序は、1位〇〇、2位〇〇、3位〇〇、4位〇〇、5位〇〇、6位〇〇、7位〇〇である。

とくに迷った組み合わせを挙げておきたい。

〇〇と〇〇は、〇〇なので〇〇のほうが勝つ。

〇〇と〇〇は、〇〇なので〇〇のほうが勝つ。

〇〇と〇〇は、〇〇なので〇〇のほうが勝つ。

第12回 自己肯定感を育てるために

【課題事後】自分にとっての自己評価の課題と青少年教育における支援方法

ややもすれば自己無力感に陥ったり、自分には無理だからと言って、大事な課題に挑戦できなかったりという経験は、あなたにはありませんか。ここでは、まず、あなた自身にとって、自己評価の課題を述べてください。

次に、若者が適正に自己評価して、自己肯定感をもてるようにするためには、どのような支援が求められているか、あなたの考えを書きなさい。

私の自己評価の課題は、次のとおりである。

．．

若者が適正に自己評価して、自己肯定感をもてるようにするためには、どのような支援が求められているかについて、私は次のように考える。

．．

第13回 企業広告への提言

【課題事後】ブランディングを意識した企業広告のあり方

行政にとっても、地域のブランディングは今後の重要な戦略の一つになります。ここでは、企業のブランドを高める広告のあり方とともに、行政による地域のブランディングのあり方について、あなたの提言をまとめてください。

私は今日の青少年から支持されるようなブランドイメージを向上させる企業広告のあり方について、次のように提言したい。

．．

また、同じく、今日の青少年から支持されるような行政による地域のブランディングのあり方について、次のように提言したい。

．．

第14回 私にとっての青少年教育論

【課題事後】

青少年教育論は、あるいは青少年教育論を扱ったこの授業は、自分にとってどのような意味があったか、自由に書いてください。

最終課題の後書きになります。

私にとって、青少年教育論やこの授業は、次のような意味があったと考える。

．．．．．

第15回 青少年教育論各論

【最終課題】

これまで書いた課題を『青少年教育論各論』としてまとめてください。
書き直したり、付け加えたりする必要はありません。
(気になるところは直してもかまいません)。

はじめに 社会に出たときの不安や知りたいことと必要能力

- 1 青少年教育による自己決定力の獲得支援の留意点
- 2 青少年の自立にとっての地域のあり方
- 3 望ましいSNSのあり方
- 4 魅力ある宿泊型青少年教育の提案
- 5 「みんなぼっち」にどう対応するか
- 6 私にとってのキャリア形成
- 7 自己決定の阻害要因と解決策
- 8 私のタイプと、強みと課題
- 9 「見知らぬ他者との出会い」の阻害要因と解決方法
- 10 大学での自分の学修をより充実するために
- 11 私の職業に関する価値観
- 12 自分にとっての自己評価の課題と青少年教育における支援方法
- 13 ブランディングを意識した企業広告と、行政による地域ブランディングのあり方

おわりに 私にとっての青少年教育論

書 名 令和4年度『青少年教育論』ワークブック

著 者 若者文化研究所代表 西村美東士

発 行 2022年4月1日



Copyright © Nishimura Mitoshi All Rights Reserved.

Supported by vivo-design.

表紙デザインは、人々の地域での暮らしや仕事を表わしています